

「死」より「生かす」ための税金

行田市立行田中学校

二年 山崎 柚希

我が家は、二年前まで犬を飼っていました。雑種のメスでした。迷子犬でお母さんの知人が警察に届けました。「落とし物」の届け出の物は半年間保管されます。命ある犬猫も、「落とし物」扱いになります。警察で預かってはられないので、飼い主が現れないと殺処分になってしまいます。両親は、その犬が保健所に連れていかれる朝に飼い主が現れないならと、引き取ることにしたそうです。私が生まれる前のことです。

優しい性格の犬で、私は小さい時から可愛がっていました。老犬となり、最期は、毎日点滴、通院、おむつで室内飼いとなり、介護後に亡くなってしまいました。ペット葬儀場で個別に告別式もやったので家族皆悲しみはありましたが、悔いはなかったです。

さて、最初にこのようにペットのことを書いたのには、理由があります。ペットブームとか、アクセサリー感覚で飼い始めた人たちは、途中で飽きると物のように投げ出してしまいます。「死ぬまで飼う」「新しい飼い主を探す」、そういった努力をしないで簡単に殺処分という選択をするということは、税金の無駄使いにつながってしまうのです。

窓口手続きだけで、大切な家族の一員だったペットの飼育放

棄をしてしまう飼い主は、そこに多額の税金や大量の資源が使われている現実を考えていないのかもしれないかもしれません。殺処分のガス代は一頭あたり八十円弱だそうです。でも、「狂犬病予防法」によって、最低三日間の収容が義務づけられているので、「施設の維持費」、「管理費」、そこで働いている職員の「人件費」、殺処分にかかる「燃料費」を入れると、(地域によって差はあるようですが)一頭に二万円から七万円と高額な税金が使われていることになるそうです。年間何億円も使われているんだろうなと思います。

国民が支払った税金で保健所などが運営され、殺処分も税金。税金を払うときは、一体何に使われているのかと騒いだり、疑問を持つけど、使い道については、まさか犬や猫を殺処分することに使われているとは、あまり知られていないと思います。税金を飼い主に見離されたペットを殺すために私は使われたくありません。人間の意識が変わらないままでは、これからも、大切な税金が無駄に使われ続けてしまいます。ただ殺処分するのではなく、一頭でも多くの命を助けるため、生かすために使う税金になったら良いなと思いました。